

| | |
|------------|---------------------|
| 1 基 本 | 2 ローン |
| 3 設 計 | 4 仕様 見積り |
| 5 インテリア | 6 アフター メンテナンス |

リビングのあり方



Weekly HABITA 075

連載

キニナルマドリ
くらしのニュース
住まいのオーダーメード館403

リビングのあり方

「広くて日当たりがよくて、家族団欒ができるリビングが欲しい」

家づくりを考える上で、どんな家庭でも共通して出てきそうなリビングの条件です。どのような家族構成であっても、家族が集まる中心の場であるリビングをより良いものにしたいという願いは共通のようです。では、より良いリビングとはどのようなものでしょうか。住まいには、数多くの様々な間取りがありますが、良いリビングというものはそんなに多いものではありません。それぞれの家族ごとのリビングの設計があるようにも思えますが、本当の意味での良いリビングというのは数が限られています。それでは、リビングのあり方と設計をみてゆきましょう。

リビングが意味すること……………

リビングルームの呼び名は欧米から伝わったもので、もともとは「drawing room」と呼ばれていました。これは、食堂(ダイニングルーム)で一同が会した食事のあと、男性たちがタバコを吸いながら政治や世間の話、つまり男性だけの話を始めると、女性・子どもたちはその場から引き下がり(draw)、食堂に隣接した控えの間で過ごしており、その部屋のことをリビング(居間)と呼んで

いたようです。やがて、女性・子どもがくつろげる、肩の凝らないこの部屋に男性も徐々に加わるようになり、現在のような家族の憩いの場になりました。玄関から遠い、家の比較的奥の部屋のことをいい、そこに来客が滞在することは親族を除いてほとんどありませんでした。

日本家屋における「リビングルーム」に相当する空間といえば「茶の間」でした。家族が集い生活の中心となる部屋であることに変わりありませんが、茶の間の場合、食事を

家づくりにおいて、家族全員の意見が集中するのはリビングでしょう。広くて日当たりのよいリビングに大きなソファとテレビ…。しかし、本当に大切なことは、リビングの広さがどのくらいでどんな家具が置けて、ということよりも、リビングのあり方をしっかりと理解した上でどのような設計にするかということです。よいリビングにはそれなりの理由があります。

する「食堂(ダイニングルーム)」の役割も兼ねることが多いのです。たいていは家屋の中で日当たりがよい場所にあり、窓が大きく縁側があるなど外に出られるようになっていることもあります。台所と繋がっていたり、簡単な仕切りのみが設けられていることが多く、応接間がない場合は茶の間がこの役割を担います。そのため、本来の「居間」とは違い、家族だけで使用する部屋というわけではありません。日本家屋独特の特性を活かして、ふすまを外して隣接する部屋などと繋げ、さらに大人数が入れるようにできます。

女性・子どもがくつろげる、という欧米の良いところと、日当たりが良く臨機応変、という日本家屋の良いところが融合されているのが、現在のリビングのあり方なのでしょう。





リビングの中心の移りかわり……

世界に現存する古民家から、リビングのあり方をみてみましょう。ヨーロッパやアメリカの古民家のリビングには、必ずと言っていいほど中心に暖炉があります。日本の古民家では囲炉裏があります。つまり、火を囲むという行為が家族団欒を意味するように残されているのです。加熱機器や空調設備が発達した現代においては、火を囲むというスタイルは少なくなりました。その後、中心となつたのは社会の情報を家庭に届ける、父親の存在です。外に出て働く父親から世間の動きが子どもたちにも伝えられ、時には父親の意見や信念が話される場でもあつたため、父親が家庭的中心的存在として鎮座していたものです。

情報社会になり、リビングの中心の存在はテレビへと移り変わります。最近では、家の中にテレビが何台もあるという家庭が少なくありません。各個室にテレビがあり、同じ時間でもそれぞれが違う番組を見ていることがあります。テレビといえば一家に一台、といった時代には、家族みんながテレビの前に集まり、番組の取り合いで兄弟姉妹をしたり、父親に番組を決める権利があつたり…と、にぎやかに家族団欒を楽しんだものでした。リビングは団欒の場であると同時に教育の場でもあつたのです。良いリビングには自然と人が集まつくるものです。時代が移り変わり、リビングの主役が火からテレビに変わったとしても家族が集まるというスタイルに変わりはありません。

思い切って、テレビを一家に一台にしてみるのも、良いリビングになる第一歩かもしれません。電気代や地球環境のことを考えても、個室を充実させるよりも、家族みんなでより多くの時間をリビングで過ごすほうが、はるかに効果的です。一人の時間を長く過ごす個室のカタチよりも、寝るためだけの個室にしていれば居心地の良いリビングに自然と家族が集まるでしょう。

リビングは教育の場……

最近、「子どもの勉強はリビングで」と考える家庭が増えています。こうし

リビングの あり方

た傾向は住まいにおける設計や、学習机のスタイルにも反映されています。家具メーカーからはリビングダイニングに置いても圧迫感がなく奥行きも浅めに設計された学習机が販売されています。住まいの設計においても、リビングに大きな本棚を設置したり、カウンターを設けて勉強できるスペースを設計しています。リビングで勉強なんてうるさくて子どもが集中できないのでは?と疑問に思う方もいるでしょうが、実は、そうでもないようです。実際、学校では集団で勉強しますから、勉強とは本来ひとりで黙々とするものではないかもしれません。

小学校低学年や中学年の子どもは一人でいることに恐怖を感じることが多いようです。子どもの頃、一人でトイレやお風呂に行くことが怖かった経験は誰にでもあると思います。夜、自分の部屋で勉強机に向かい一人で勉強していく、怖いことが気になって逆に集中できません。家族の声や物音が聞こえるリビングダイニングでは安心感からか子どもの集中力は高まります。

また、子どもは、分からぬ問題はその場ですぐに質問して勉強できます。親のほうも、子どもが勉強している様子を常に見ることができ、何が苦手で何が得意かといったことも把握できます。親子間のコミュニケーションの向上と子どもの教育の場にもなるのです。実際、成績優秀な子どもは、聞いてみるとリビングで勉強しているケースが多いようです。東大生のアンケートでも、合格者の半数がリビングで勉強していたという結果が出ているほどです。

HABITAのリビング……

HABITAのリビングのあり方も、子どもを基本とした間取りになっています。「岩瀬牧場」では玄関を入れると仕切りなくリビングに繋がっています。子どもが帰ってきて、リビングに必ず顔をのぞかせる設計になっているので、家族の誰とも顔を合わせず2階に上がるといったことがなくなります。帰ってきた子どもの顔や態度をきちんと毎日確認することは、子育てにおいてもっとも基本となることでもあります。また、来客の場合はきちんとした挨拶を教える機会にもなります。こ

うした設計をセンターリビングと言つて、良いリビングの条件にもなる設計です。

リビングダイニングの枠を超えた設計が「みんなの家」です。家族だけの団欒の場ではなく、近所の人や仲間や友人が集う場としてのカフェという位置づけです。同じ価値観やコミュニティを形成する時代において、カフェのように気軽に集える場が住まいにも誕生したのです。こうした空間では、子どもたちも同様にその場の団欒を楽しめます。友達の子どもであつ

ても叱り、みんなで教育するカフェ。こうした光景は昔にもあつたはずで、住まいの設計に反映されたので新しいカタチに見えるかもしれません、古き良き時代の考え方を受け継いだ設計です。

リビングのスペースが足りなくて、勉強机やカウンターを設置できないという場合には、無理に設計により込まなくてもよいのです。その場合は、少し大きめのダイニングテーブルを中心に設ければ、食事が終われば自分の勉強セットを持ってくればよいのです。食事をする以外はダイニングテーブルは暇をもてあましているのですから。子どもは勉強、お父さんはパソコンで仕事、お母さんはキッチンで片づけ…という光景も想像できます。

リビングは人が集まらないと、ただの個室になってしまいます。家族が集い、くつろいだり、楽しんだり、喧嘩したり、ときには家族会議をしたり、こうした家族の成長と子どもの教育の場であることが、良いリビングの条件です。広さやカタチは家庭ごとに違っていても、これらの条件を満たしていれば、きっとリビングを上手に活用できる素敵な暮らしになるでしょう。



HABITA「岩瀬牧場」のリビング



HABITA「みんなの家」のリビング

キニナルマドリ

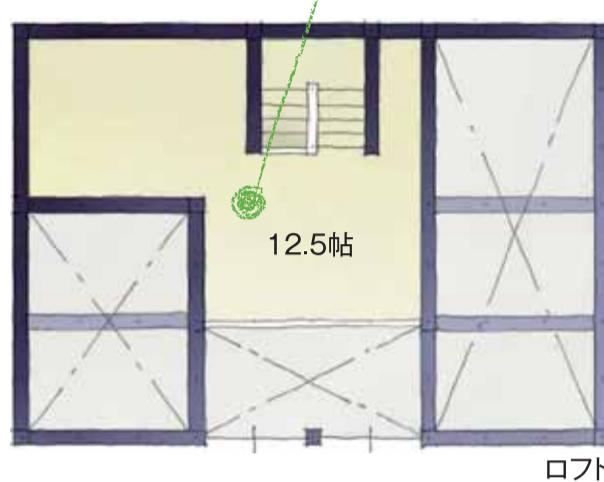
かぞくの家

HABITAさいたまスタジオ

約6帖もあるフロアは、吹き抜けに面しているのでとても開放的。ただの廊下じゃもったいない、アイデア次第で素敵な共有スペースに。

「現し」のHABITAだから丈夫な梁にブランコだって吊るせちゃう。

屋根裏部屋みたいなロフトは家族の秘密基地。使い方は無限大。



二つの洗面ボウルがあれば忙しい朝もスムーズに。



家族が多いと重宝する広めのたたき。



見本

■ 建築場所:埼玉県北足立郡 ■ 敷地面積:47坪
■ 建物面積:1階17.5坪 2階15.5坪 延33坪
■ 建設企業:HABITAさいたまスタジオ



東北8市町村がスマートコミュニティで復興へ

2012年4月16日、経済産業省が実施する「スマートコミュニティ導入促進事業」の対象になる地方自治体として、東北の8つの市町村が選ばれました。

「スマートコミュニティ導入促進事業」とは東日本大震災の被災地復興が狙いで、福島、宮城、岩手の3県の自治体と事業者が共同で実施する、再生可能エネルギーを活用したスマートコミュニティ構築を補助する制度であり、80億円の補助金が出ます。

スマートコミュニティとは、スマートシティと同義であり、インフラ等生活に関わる様々な事柄がシステムによってより効率良く管理されている地域や区画のことです。いわば次世代型都市、スマートハウスの町バージョンと言ってしまうとわかりやすいでしょうか。

さて、それぞれの市町村が発表している構想を少し見てみましょう。

まず宮城県石巻市には、国内外でスマートコミュニティ計画に参画している東芝が関わります。市が掲げる「エコ・セーフティタウン構想」を元に地域エネルギー管理システムを開発したり、太陽光発電システム、蓄電池を設置して災害時でも電力供給を確保できる町の実現を目指します。

また宮城県大衡村とトヨタ自動車では、トヨタ自動車の製造子会社であるセントラル自動車の隣接地にパ

プリカ農場を新設すると発表しました。同工場の自家発電設備の廃熱を利用することによって燃料や電力を減らすことができる等、環境負荷を削減しながらパブリックを生産することができます。トヨタが培ってきたモノづくりの技術を応用して、農業の生産性や競争力を向上させるためのアイデアを考案していく予定です。

そして福島県会津若松市と富士通は調査の結果、再生可能エネルギーとして太陽光、風力、木質バイオマス(生物資源)などで約15万kWの発電

が可能なことを確認・検討していると発表しています。さらに「分散型に配置されたバイオマス発電による熱電併給によるまちづくり」「太陽光発電／蓄電池の導入促進と地域災害対策との連動」「エネルギーコントロールセンターの構築」などの具体的な計画を策定します。

その他のユニークなところでは、宮城県の気仙沼市が地元の水産加工業者を中心にプロジェクトを推進します。

各自治体は9月までに基本計画を策定し、認定されれば5億円以上のプロジェクトに限り、実際のシステム導入にかかる費用の3分の2の補助金が支給されます。4年後の2016年3月までに導入するシステムや機器が対象となるので、計画通りに進めば、今後4年以内に東北3県の複数の地域で再生可能エネルギーを活用したスマートコミュニティが形成されることになります。

それぞれの個性豊かな各企業が誇る技術とノウハウによって、被災地がどのような次世代型都市に生まれ変わるか期待が寄せられます。

| 県 | 市町村 | 共同申請者 |
|-----|-------|--|
| 岩手県 | 釜石市 | 新日鐵エンジニアリング、東北電力 |
| | 北上市 | JX日鉱日石エネルギー、北上オフィスプラザ |
| | 宮古市 | エネット、NTTデータ、日本国土開発 |
| 宮城県 | 石巻市 | 東芝、東北電力 |
| | 大衡村 | トヨタ自動車、セントラル自動車 |
| | 気仙沼市 | 荏原環境プラント、スマートシティ企画、阿部長商店 カナエ、カネカフーズ、気仙沼水産加工協同組合 サンリク東洋、高順商店、高橋水産、八葉水産、マルフジ |
| 福島県 | 山元町 | エネット、NTT東日本 |
| | 会津若松市 | 富士通、東北電力 |

長持ちする設計

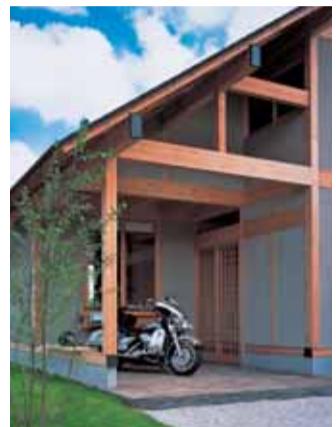
棟の高い家はめでたい

棟が高く、急勾配の屋根は水はけがよく長持ちします。デザインを重視した勾配のない屋根は、雨漏りや耐久性に悩まされる可能性が高いため、要注意です。「うだつが上がる」という言葉がありますが、うだつとは、屋根のてっぺんにある装飾を施した瓦のことです。うだつを上げるためににはそれなりの出費が必要だったことから、富の象徴になり、屋根上には競って立派なうだつが上げられました。これが「生活や地位が向上しない」「見栄えがない」という意味の慣用句「うだつが上がらない」の語源になったのです。昔、平民が少しでも屋根を高く積み上げ、武士の家に近づこうとしたことから生まれた言葉。棟の高いことは理にかなったうだつの上がる話です。



軒が深く、庇の長い家は夏涼しく、冬暖かい。

軒の出が深く、庇も長いことは日本建築の特徴です。太陽の位置が高い夏は、家の中まで太陽光が入らないで涼しく過ごせます。冬は太陽の位置が低いので、家の奥まで光が差し込んで暖かいという自然エネルギーを利用して、効率的に生活することができる先人の知恵です。開口部や外壁に雨があたることを防ぎ、家の耐久性を高める効果もあります。最近では軒のないデザイン住宅があふれていますが、軒の出や庇のない家は家づくりの基本から間違っています。そんな家に限って高断熱高気密とうたっているからおかしな話です。日本の気候風土がもたらした形ですから、軒が長いのは日本の住居の基本です。



高い基礎は耐久性が長い

昔の木造住宅には縁の下がありました。そこに薪などを入れて保存していたものです。しかし今では、鉄筋コンクリートの基礎を設けているので縁の下はなくなってしまいました。縁の下には風通しをよくする働きがあり、家の土台を腐らせずに、長持ちさせたのです。

基礎が低いと地面から湿気が上がりやすく、通気も悪いとカビなどが発生し土台が腐りやすくなってしまいます。日本は湿度が高く、梅雨や秋雨など季節の長雨もあります。「基礎はできるだけ高く」これが家を長持ちさせる基本です。基礎が2倍高いと耐久性が4倍長くなると言われているほどです。



平屋は住みやすい

敷地が広ければ、平屋を建てるのがおすすめです。2階建より住みやすい平屋の特徴は、階段の上り下りを必要とせず、平面の移動だけで生活の用が足せる利便性があります。生活動線が短くシンプルにでき、見渡しの良い空間づくりが可能です。上下移動がないため、バリアフリー対応も容易にできます。2階の荷重がない分、耐震性にも優れています。ガーデニングや畠仕事、日曜大工などでも、平屋は庭の魅力を引き立たせるので、庭を家の延長のような感覚で暮らすことができます。



居心地

天井は、間抜けにならない吹き抜けを

吹き抜けのある空間は開放感があり、素晴らしいものです。よく、1階から2階をぶち抜いた空間が見うけられます。あれは吹き抜けではなく、間抜けと言います。吹き抜けとは、1.5階ほど高い空間のことです。あまりにも高すぎたり、広すぎたりすると空間のバランスが崩れて、心地よさが損なわれます。和室は、座って生活するので、洋室より天井をやや低くした方が心地よく、また和室の吹き抜けはありません。

部屋の隅が心地良い

家を建てる時は人生が成功している時なので、窓を大きく明るくしてしまうことが多いですが、人生明るい日ばかりではありません。集中するとき、落ち込んだ時、悩み考えるとき、人間(動物も)は明るい場所よりも暗い場所を求める。部屋の隅にうすくまり、薄暗い場所のほうが心理的に落ち着くからです。

家というのは多少薄暗い部分がある方が住みやすいのです。日本人が昔から愛してきた光と影は、暗いところがあつて初めて明るいところが魅力的に見えるものです。大きな窓ばかりではなく、幅を狭くして、高さをとり明かりを確保する窓が良いでしょう。

自然素材でまとめる

木と土と紙などの自然素材をベースにした家づくりは、湿気の調節に最適で日本の気候風土にマッチしていました。冷暖房などない時代には本当のエコライフが息づいていました。土壁、ふすま、障子、畳という建材を駆使した昔ながらの家では、穴が開いたらへこんだり破けたりはしますが、子どもたちに怪我はさせません。プラスチックや金属などはキズもつきにくく丈夫ですが、人には優しくありません。キズが増えてゆくごとに家族も家も共に成長するのです。人に優しいことは住宅の重要な性能です。自然素材を使った日本の住文化を忘れてはいませんか。

木火土金水

「もく、か、ど、こん、すい」とは、古代中国に端を発する自然哲学の思想で、万物は木・火・土・金・水の5種類の元素からなるという説です。茶室は、この木火土金水で構成されています。柱と天井の木、お茶を沸かす火、土でできた壁、釜などの金物、そしてお茶をたてる水。宇宙にあるものが小さな空間に全部あります。茶室は言わば小宇宙なのです。狭いにじり口をくぐると、四畳半とはいえそこは全宇宙を体現した広大無限な空間です。不思議と落ちついて居心地がよいのは、この宇宙を構成する要素があるからです。なにかひとつでも欠けるとおかしいのです。



心地良い色は、子どもの時より見てきた日本の風景

日本人は、色同士の「合う」「合わない」を敏感に判断し、色を見分ける能力が高い民族です。空間の中で色が多くなると、「ごちゃごちゃしている」と感じます。それは、空間において素材そのものの色を大切にしてきたからです。例えば、古民家などに見られる建具、畳、土壁、障子、そして天井も素材そのものの色、あるいは素材が経年変化した色が多いのです。草花や自然の中の色が多く、日本の主な伝統色だけでも約450色と言われています。朱色の赤、紺色の青は、木の色と相性が良いので、そういうインテリアには心地良く合います。イタリアやアメリカの赤を1点、わざわざ入れるのも空間としてまとまりがあれば、アクセントや愛嬌にはなります。



住まいの
オーダーメード館

オーダーメードホームシアター

目指したのは、コンサートホールのグループ感。部屋いっぱいのハイビジョン画面では大好きな映画やアーティストのライブを楽しめます。5.1CHデジタルサラウンドの大迫力!床に音のエネルギー

を伝え、もうここはコンサートホールの中!

壁は鎧張りなので、様々な音の反射を計算し、フラッターエコーを起しません。大音量でギターを弾いても気持ちよく、ホームシアターを楽しんでもボディソニック感を体感できます。

たくさんの音を聞き分けられる音響を実現し、2カ所のドアは防音2重ドアです。部屋には防音

性能D-50を確保する防音工事を施してあるので夜中でも2階の寝室には音が届かず、ぐっすりと熟睡できます。

吸排気システムは、オリジナル消音ボックスで、防音に一番弱いとされている箇所も完璧にカバーしました。オーダーメードだからこそ実現できました。

価格:お見積り

403掲載商品No. G-0314_007

住まいのオーダーメード館 403

東京都新宿区新宿1-2-1-1F

<http://order403.com/>

403

検索